

総題 “家族の四季”

教団青年部

2019年6月22日～29日

第13課	題：「終わりの時に心を元に戻す」	執筆者：下地英樹
------	------------------	----------

● 今週のポイント

- ① 今週は、暗唱聖句の御言葉である「見よ、わたしは／大いなる恐るべき日が来る前に／預言者エリヤをあなたたちに遣わす。彼は父の心を子に／子の心を父に向けさせる。・・・」（マラキ 3：23、24）について学びます。
- ② 預言者エリヤは、カルメル山においてバアルの預言者 450 人、アシェラの預言者 400 人と対決し、勝利しました。
- ③ エリヤはイスラエルの民に決断を迫りました。「・・・『あなたがたはいつまで二つのものの間を迷っているのですか。主が神ならばそれに従いなさい。しかしバアルが神ならば、それに従いなさい』（列上 18：21）
- ④ イスラエルの民をエジプトから導いたモーセも、民が荒野で金の子牛を造ったときに決断を迫りました。「・・・すべて主につく者はわたしのもとにきなさい」（出 32：26）。
- ⑤ イスラエルの民を約束の地カナンへと導いたヨシュアも、人々に決断を迫りました。「・・・あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます」（ヨシュ 24：15）
- ⑥ マラキ書 3：23 の「預言者イザヤ」が与えられるという預言は、バプテスマのヨハネの出現によって成就しました。
- ⑦ バプテスマのヨハネは、人々に悔い改めを訴え、イエス・キリストの出現前に道を備える働きをしました。彼の働きは人々の心をイエス・キリストに向ける事でした。
- ⑧ 「大いなる恐るべき日」とは、イエス・キリスト出現の時を指します。私たちクリスチャンにとっては希望の時ですが、イエス・キリストを信じない人々にとっては裁きの時です。
- ⑨ バプテスマのヨハネは、イエス・キリストが初臨される前に悔い改めを訴え、人々の心をイエス・キリストに向けさせ、道を備える働きをしました。私たちもイエス・キリストが再臨される前に、人々に悔い改めを訴え、人々の心をイエス・キリストに向けさせ、道を備える働きが託されています。
- ⑩ 今日、エリヤのメッセージは、かつてないほど重要になっています。セブンスデー・アドベンチストは、私たちと私たちの子どもを滅ぼそうと脅かす勢力に対して、立ち上がり、語るために、神によって清められた大胆さと勇気を必要としています。（2019年第2期副読本 105 頁）

● ディスカッションのためのテーマ

- ① 列王紀上 18 章を読み、この物語について考えてみてください。
- ② エリヤの働き、バプテスマのヨハネの働きについて考えてみてください。
- ③ エリヤのメッセージとあなたの所属教会との関連性について考えてみてください。あなたの所属教会がこのメッセージと、それを広めるための役割を理解するために、あなたは何をすることができますか。